



長野県看護大学学報



退任記念講演にて

清水嘉子前学長から退任のご挨拶

新しい年度がスタートして、教職員・学生の皆様、お元気のことと思います。4年間の学長の在任期間を含め、13年間大変お世話になりました。

4月から、新設の看護学部で仕事を始めました。4学部の総合大学になります。20年を超える歴史のある大学から、1からのスタートになります。当方は教育と並行しながら助産専攻科（30名定員）、大学院

の設置におけ霞が関に出向きつつ進めていきます。現在106名の学生が、名城前キャンパスに通学しています。手狭になるため増築の予定です。

国立大学再編の話を目にするようになりました。共に厳しい時代を過ごすこととなりますが、看護の真理をいつも心にとめて過ごしたいと思います。折に触れ長野県看護大学で過ごした日々のことを思い出します。皆様、どうぞお健やかに、そしてより良き日々をお過ごしください。

前学長 清水 嘉子

(名古屋学芸大学 学長補佐 看護学部教授)



新学長よりご挨拶



本学は今年 24 年目を迎えます。現在学部卒業生と大学院修了生を合わせて 1,878 名が県内外で活躍しています。人工知能が人間を超えるといわれる技術的特異点 (Singularity) の到来等激変する社会において、グローバル (多様) な視野を持ち、人々に寄り添い、物事の本質を見極める判断力を持ち、チャレンジ精神に溢れこころざしの高い人材 (Choice Spirits) の育成、すなわち、「グローバル」と「チャレンジ」と「ケア力」と「知性」の 4 つを行動目標とした教育を推進したいと思います。加えて、県の「しあわせ信州創造プラン 2.0 ~学びと自治の力で拓く新時代~」(2018 年度~2022 年度) について、保健医療面から積極的に取り組みたいと考えています。

本学の教育理念である「学生個々人のもつ可能性が最大限に開花すること」を目指し、オリジナリティとブランド力を高め、国内外から人々を引き寄せる個性豊かで魅力溢れる大学 (Magnet College) づくりに努めたいと思います。

学長 北山 秋雄

新学部長 & 新研究科長よりご挨拶



この 4 月より学部長を務めることになりました。私が本学に着任して 11 年が過ぎます。本学に着任前は、私は国立大学で約 10 年間過ごしてきました。着任した時には、本学の教員数の多さに驚きました。このように恵まれた人的環境を生かして教育・研究の質向上に努めることは、本学の使命であり、学部長としても心しておくべきことと思います。

長野県は、多くの高齢過疎地域を抱えるという独自の課題を持った県です。人々の健康長寿の実現に向けた地域貢献ができる大学を目指して、皆様とともに職務に励みたいと思います。

学部長 渡辺 みどり



2018 年度より研究科長を拝命しました。

大学院の教育について誤解をおそれずに一言でいうならば、“おもしろい”となるでしょうか。造語です。学生さんが看護実践の中で感じる疑問を臨床上の問い (クリニカルクエッション) に整理して、さらに看護学研究の問いにしていく過程は、学生の研究過程をサポートする立場としておもしろいプロセスです。しかし、そのプロセスを経て得られた研究成果は興味深く、それまで言葉にならなかったことが言語化され、おもしろみを感じる瞬間でもあります。

これまでに大学院生と沢山の出会いがあり、ひとつひとつが私の財産になっています。関心のある方はどうぞお気軽に声をかけてください。

研究科長 安田 貴恵子

平成30年度 新入生紹介

今年度は、学部生85名、大学院博士前期課程6名、博士後期課程1名を迎えました。新入生からいただいたメッセージを紹介します。

安藤 菜さん(写真左から2番目)
看護学部1年生



私は静岡県出身なので、今年の春から一人暮らしを始めることになりました。最初は不安でいっぱいでしたが、寮で友達とご飯を食べたり、レポートを書いたりして毎日楽しく過ごしています。授業も高校の時と比べ専門性が高く、難しくなっているので、日々の勉強を疎かにせず、目標とする資格が取れるよう頑張っていきたいと思います。



長谷川 芽衣さん(写真前列中央)
看護学部1年生

今年の春から一人暮らしが始まり、不安と寂しさでいっぱいでしたが、友達と一緒に勉強したりご飯を食べたり、毎日充実した楽しい生活を送っています。また、この地で学べることに感謝して、勉強とサークル、バイトなど両立し、看護師になるために日々努力していきたいと思っています。

前山 健人さん(写真右奥)
大学院看護学研究科博士前期課程1年生



今年度、大学院看護学研究科博士前期課程には6名が入学しました。

全員、仕事をしながら本学での学修となります。早、3ヶ月が経ち、頭の中は、職場の実践と本学での学修が、「行ったり来たり」と、試行錯誤しています。両立は大変です。しかし、6名それぞれ職場環境は違いますが、共通の想いがあります。それは、自分の看護を探究したい想いです。その想いを糧に、本学での学修を大いに楽しみます。また、同時に研究テーマを通して、看護職の魅力を広く伝えられる者になれたらと思っています。

新任教職員紹介

今年度4月に、11名の新任教職員が着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。新任教職員を代表して、事務局長から挨拶させていただきます。

開学から24年目を迎え、1800名を超える卒業生・修了生が全国各地で活躍されている一方、本学を取り巻く環境も大きく変わってきております。

新任教職員一同、北山学長を始め先輩諸氏の御指導を頂きながら、本学の更なる発展のため努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局長 宮村 泰之



後列：左から、宮村泰之（事務局長）、鮎澤宏和（教務・学生課長）、青木駿介（成人看護学分野助手）、羽柴永年（専門幹兼総務課長補佐）

前列：左から、吉澤理恵（認定看護師教育課程専任教員）、藤井あゆみ（母性・助産看護学分野助手）、林陽子（母性・助産看護学分野助手）、富田美雪（地域・在宅看護学分野助手）、中村康子（学生支援員）



左が清水満里子（主幹学校司書）、右が水主洋子（母性・助産看護学分野助教）

学生新年度の抱負

新年度を迎え、在学生も新たな気持ちでスタートしています。新年度の抱負を紹介します。

2年生に進級し、座学では領域別の講義が始まりました。専門的な学びが増え、1年次よりさらに意欲的に取り組もうと身が引き締まる思いです。

また、後学期の初めには、2週間患者さんを受け持たせていただく基礎看護実習Ⅱがあります。正直不安な気持ちはありますが、臨床の現場でしか出来ない貴重な経験から多くのことを学びたいです。

恵まれた環境で大学生活を送れることに感謝し、日々前進するために努力を重ねます。



安達さん

安達 理乃さん(看護学部2年生)



竹森さん

気づいたらもう3年生になっていました。あっという間の2年間が終わり、今年はどうとう領域別実習が始まる学年です。先輩が実習をこなしているのを見ていた今までの2年間は、私が実習をやっているなんて思いもしませんでした。しかし、授業の中で実習に向けた内容をやるうちに実習の実感が湧いてきています。良くも悪くも看護師になっていくうえで大きな壁であると思うので、楽しみながら乗り越えていきたいです。

竹森 裕一さん(看護学部3年生)

看護の勉強を初めて4年目になりました。今年度の抱負はなんといっても国家試験の合格です。国試対策の勉強はもちろん、実習や卒業研究も全て自分の力になるように頑張りたいです。入学当初の看護に対する漠然としたイメージも、いくつもの実習を経て、自分の目指す看護としてカタチになってきました。まだまだ実習が続くので、臨床でのリアルな経験からたくさんのことを吸収して自分の看護観を深めていきたいと思います。

堀 清花さん(看護学部4年生)



堀さん

学生生活動報告

ジョギング&ウォーキング倶楽部



松本のハーフマラソン参加

「ヘルシー&ダイエット」そして交流を目的としたサークルが再始動しました。皆さん!日頃から運動不足、基礎代謝低下を感じていませんか。毎週集まったメンバー全員で健康体操(肩こり・便秘体操等)をやった後、喋りながらのジョギング、ウォーキングを行っています。現在登録者は、66名です。大会参加や交流イベントを実施しています。3月には松本のハーフマラソンへ参加してきました。誰もが気楽に、無理のない運動を日常に、サークルの目標です。突然の参加も大歓迎です。お待ちしております。
★毎週木曜日 18:15 大学図書館前に集合です。

神谷 善之さん(ジョギング&ウォーキング倶楽部サークル長)

卒業生メッセージ

看護師として入職し、約1か月が経とうとしています。毎日たくさんの方のことを覚え、大変なこともあります。社会人としても看護師としても1年生の私たちを職場の皆様が温かく迎えてくださり、1日でも早くチームの力になれるようになりたいと感じる日々を過ごしています。学生時代は、実習など乗り越えなければならない壁も多いですが、今を一生懸命頑張ることの大切さを、今とても感じています。一緒に頑張っていきましょう。

平成29(2017)年度卒業 学部20回生 小林 里香さん



真ん中が小林さん



神澤さん

この3月に博士前期課程を修了することができました。修了にあたっては、多くの先生方からのご指導、ご支援を頂き大変感謝しております。入学当初は大変という思いで課題をこなしていたような気もしていますが、修了が決まった時には嬉しい反面、寂しさもこみ上げてきました。この年になって自ら学ぶことの大切さ、楽しさを、再認識したように思います。大学院での学びを社会に貢献できるよう、今後も日々精進していきたいと思っています。

平成29(2017)年度修了 博士前期課程16回生 神澤 絢子さん

3月10日の修了式は、感慨深いものでした。6年間通った大学。大変な思いもありましたが、あの日に降った雪とともに消えていき、清々しく、暖かさが溢れて来るように感じた式典でした。レセプションでは、来賓の方や学部の保護者の方からもお祝いのお声をかけて頂き、大変嬉しかったことが思い出されます。

4月から、教員としての日常に追われている毎日ですが、研究者として一つひとつ丁寧に積み上げて行きたいと思っています。

平成29(2017)年度修了 博士後期課程14回生 吉村 恵美子さん



吉村さん

内田雅代先生 退任のお知らせ

退任にあたってのメッセージ

長野県看護大学創設期からこの3月まで、色々な方々と一緒に22年間仕事をさせて頂きました。先生方や事務の方々、学生の皆様にお礼申し上げます。

長野の地を離れ、新たな学部創設1年目の幕張の地で、勝手の違う大学運営や人間関係、キャンパスや研究室のイメージの違いに驚きながら、新鮮さと居心地の良さを感じる中で、学生定員の多さ、実習場の受け皿、教員のマンパワー等の限界も感じられ、どのように自分の役割がとれるのか、考えさせられます。一方、教員達の廊下での立ち話からは大学づくりへの熱意が、多様な学生との面談からは様々な思いを持ってここに集まっているのが感じられます。“なんとかなる”でしょうか。

長野県看護大学の皆様には、これまで培った自由闊達な風土を大切に、新学長のリーダーシップの下、新たな課題や教育・研究に取り組んでいって下さることを願っています。



前小児看護学分野教授 内田 雅代

(東都医療大学幕張ヒューマンケア学部看護学科教授)

フォトかんごだい

平成30年1月～6月



1月29日
平成29年度認定看護師教育課程修了式



2月2日 学生自治会
4年生の国試を応援する会



3月8日
博士論文発表会



3月9日 卒業生記念植樹



3月10日 平成29年度卒業式・修了式



3月10日
卒業生を送る会



3月19日
第14回長野県看護大学研究集会



4月3日
平成30年度入学式



4月4日
新入生オリエンテーション



5月12日 農園サークル 植え付け



6月7日
大学院授業風景



6月9日
ふれあい花壇定植

大学の活動紹介：看護実践国際研究センター

実習FD・ユニフィケーション研修会

小児看護学分野助教 足立 美紀



藤沢市教育文化センターの目黒悟先生を再びお招きし、3月22日に『看護の学びを支える授業デザイン～実りある臨地実習に向けて～』を学内外から60名が受講しました。講義・演習を通し、学習者の学び（経験の意味付け）の過程に具体的に関わることが指導であり、そこには教える者のねがいが一貫性をもってあることの大切さと、その具体化のための授業デザインを体験しました。1日と長い研修ではありましたが、実習指導への手がかりをつかめた有意義な時間となりました。

出前講座

成人看護学分野助教 熊谷 理恵

子育てサークル「ひらけごま」に参加する13名の母親を対象に骨盤のゆがみによる身体症状、ゆがみのチェックの仕方、骨盤体操などの説明を行いました。その後、自身の骨盤のゆがみを確認しました。子育て中の母親は自身の身体へ意識を向ける機会がなかなかないので、楽しそうに参加されました。これを機に身体のメンテナンスをして子育てを楽しんで頂きたいです。



自治体連携チーム

ネパールとの交流 一駒ケ根市とネパール国ポカラ市との友好交流を基盤にして

地域・在宅看護学分野教授 安田 貴恵子



大学のある駒ケ根市ではネパール交流市民の会が中心となって、ネパール国ポカラ市との交流を継続しており、市民交流や母子友好病院の建設、医療職の研修等の実績があります。これらが基盤となって、現在ポカラ市にある母子友好病院を中心とする助産・母子保健の充実を目指したプロジェクト(JICA補助金)が取り組まれています。

そのプロジェクトの一環である日本での来日研修の一部に2015年度から長野県看護大学は協力させていただいています。妊婦のリラクゼーション法や小児家庭訪問の方法、プライマリ・ヘルス・ケアの理念と実践等について行ってきました。ネパールの現状を教えてもらうことで、日本の特徴を改めて実感するという場面もありました。少子化が進む日本では、ネパールの子育てのおおらかさを見習ってもよいかもしれません。



INFORMATION



平成30年度 公開講座

『里山看護・遠隔看護学』を解剖するー里山の創生を目指してー

講師 北山 秋雄 長野県看護大学学長

日時 平成30年9月22日(土)13:30～14:30(受付開始13:00)

会場 長野県看護大学 大講義室(教育研究棟3階)

第23回 鈴風祭

テーマ

「今日くらい 看護を忘れたって いいじゃない」

日時 平成30年9月8日(土)、9日(日)
10:00～16:00



鈴風祭実行委員会の皆さん
(前列右から1番目が実行委員長の草島 多英さん)

長野県看護大学大学院看護学研究科入学試験

平成31年度入試の募集人員・日程

1次試験

試験名	博士前期課程試験	博士後期課程試験
出願期間	H30.9.27(木)～H30.10.4(木)	
試験日	H30.10.20(土)	
試験科目	小論文・専門科目 ・面接	英語・口述試験
合格発表	H30.10.25(木)	

2次試験 (1次試験で定員に達しない場合に実施)

試験名	博士前期課程試験	博士後期課程試験
出願期間	H31.1.4(金)～H31.1.11(金)	
試験日	H31.1.26(土)	
試験科目	小論文・専門科目 ・面接	英語・口述試験
合格発表	H31.1.31(木)	

募集人員：前期課程16名、後期課程4名

専門学校・短期大学を卒業した方も、事前審査により出願できます



自分を知る 人を知る
そして未来を描く



〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694 TEL 0265-81-5100 <http://www.nagano-nurs.ac.jp/>

長野県看護大学学報
No.46 (平成30年7月)

編集・発行
長野県看護大学広報・交流委員会



大学院だより

vol.6

長野県看護大学大学院について

長野県看護大学大学院は、主に看護職者の卒後教育の1つとして1999年4月より、学生を受け入れています。これまでに、全体で174名が修了しています（2018年3月末）。今回は、前期課程（修士）のご紹介をしたいと思います。

基礎教育との大きな違いは、“こういうことを学んで活かしたい”“臨床現場でもやもやをはっきりさせたい”など、ご自身のテーマ（問題意識）をもってきていただくことです。

その他の特長として、①入学後も仕事を続けたい人のために、長期履修制度を設けています。②遠隔授業システムを整備しており、学生の方は職場や自宅からパソコンを使って大学院の授業に参加することができます。③高度な看護実践能力に焦点を当てた、専門看護師コース（老年看護、小児看護、精神看護）を設けています。④国外の看護・看護教育について理解を深める機会として、看護海外研修プログラムを有しています。

大学院生のサポート体制も充実しており、多くの方にチャレンジしていただきたいと考えています。

安田 貴恵子（研究科長 地域・在宅看護学分野教授）



修了生とともに

修了生紹介

「修士・博士課程で学んで」

わたしは、修士課程（博士前期課程）に入学して以降、臨床現場で働いていた頃からの疑問であった「せん妄を発症した患者さんへの援助方法」に関する研究に取り組んできました。研究を進めていく中で、世界中で同じような疑問に取り組んでいる人がいること、様々な研究によりせん妄の発症因子や援助方法が明らかにされていること、また看護の現場は病院だけでなく、高齢者ケア施設や在宅など多岐に渡ることを実感しました。



学部3年生の講義中の江頭さん

修士課程では「老人保健施設におけるせん妄ケア」について研究し、その研究をさらに発展させたいと、進学した博士後期課程では、「高齢者施設における高齢者のせん妄重症化予防ケア」の研究に取り組みました。後期課程では、自主的な研究遂行が求められ、自分で考えて実践する苦しさとの戦いでした。具体的にはせん妄重症化予防ケアプログラムを作成し、施設ケアスタッフによる実践を含めた研究になりました。対象者に対するケアを模索し、ケアプログラムをより有効性の高いものとするべく、対象者が示した反応に向き合う日々でした。仕事と両立しながら、大学院生として学ぶことは多くの困難がありましたが、先生方から丁寧なご指導を受け、論文を書き上げることができました。

研究は、臨床現場のケアをより良くするものであると考えます。患者さんや家族にとって、望ましい生活はどのようなものか、わたしたち看護職がすべきことは何なのか、その一助になる研究を今後も進めていきたいと思っています。

江頭 有夏さん

博士前期課程 平成20年度修了 博士後期課程 平成24年度修了

■ 教員の研究紹介

里山で暮らす人々の健康資源や人類学を専門に研究しています。今回はその中で、睡眠の研究について紹介します。研究の中心はアフリカで暮らすチンパンジーなど霊長類の睡眠なのですが、ヒトは霊長類の一種ですので、他の霊長類と共通点がいくつもあります。たとえばレム睡眠やノンレム睡眠は他の霊長類にも見られます。眠り方にも共通点があり、チンパンジーは「快適なベッド」の上で眠ります。このベッドは木の上に枝葉で作られ、真ん中がくぼみ、縁が盛り上がったお皿のような形をしています。横たわってみると、まるでゆりかごのような最高の寝心地。そこでこのベッドをヒントに「人類進化ベッド」を開発しました。睡眠は私たちの生活の質を考える上でひとつの重要な鍵となっています。研究を通して、私たちの暮らしや健康を見つめなおしていきたいと思っています。

座馬 耕一郎 (里山・遠隔看護学分野准教授)



研究室にある人類進化ベッド



樹上のベッドで寝るチンパンジー

■ 院生紹介

私は、母性・助産看護学分野で初めて子どもをもつ妊娠期の夫婦に関する研究に取り組んでいます。長期履修制度を利用し、在籍3年目を迎えました。昨年の夏にフィールドでのプレ調査を終え、今年の2月～4月にかけてご夫婦へのインタビュー調査を実施し、現在は得られたデータの分析を行っています。分析にあたっては、常に、この研究で何を明らかにしたかったのか、その意義は何なのか、どのような援助の視点が得られたか、という意識を忘れずに取り組んでいきたいと考えています。

井出 彩織さん (大学院博士前期課程2年生)



研究室での井出さん

